

# 女性労働者活躍の推進状況

「産業保健21」編集委員、四日市看護医療大学名誉学長 ● 河野啓子

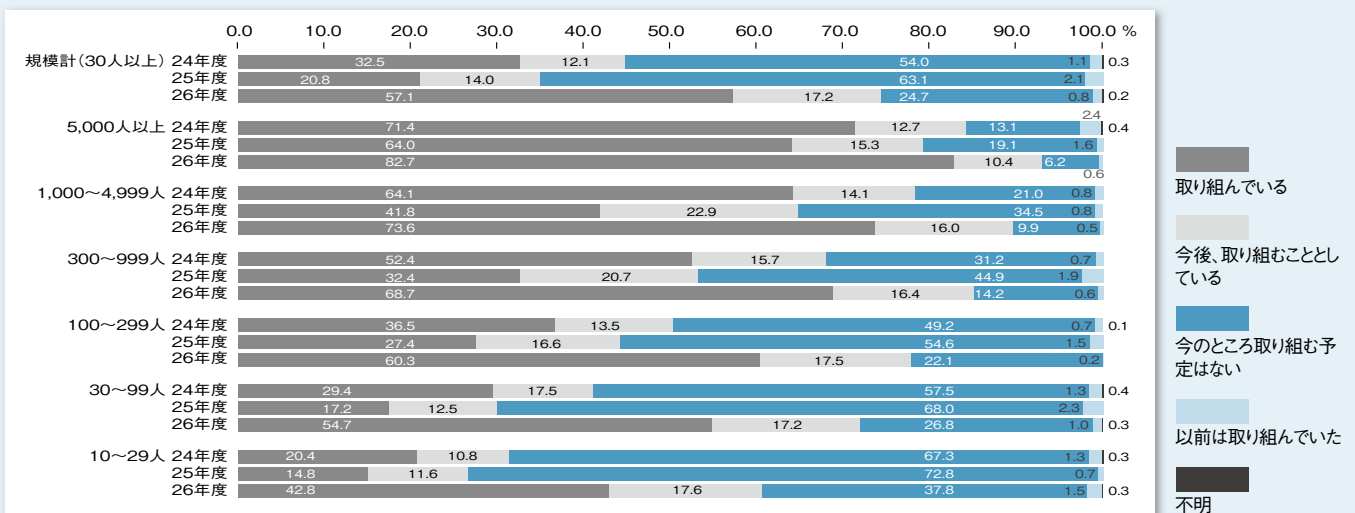
わが国の急速な少子高齢化は今後も進み、労働力人口の減少が見込まれている。そのような状況下で、経済の活力を維持していくためには、高年齢労働者、女性、障害者など、働くことが可能なすべての人が社会を支える「全員参加型社会」の実現が、喫緊の課題となっている。中でも、わが国最大の潜在力である「女性の力」の発揮は、重要な位置づけをもつものである。そのため、さまざまな政策が打ち出されているが、その中のポジティブ・アクションの取り組み実態から、女性の活躍推進の状況をみてみよう。

ポジティブ・アクションとは、過去の雇用慣行や性別役割分担意識などが原因で、男女労働者の間に事実上生じている格差の解消を目的とし、企業が自主的かつ積極的に行う取り組みである。その取り組み状況について、平成24年度と平成26年度の調査結果を比較してみよう(図1)。規模別にみると、もともと高かった1000人

以上の規模では10%程度、300～999人では16%の上昇であったが、299人以下ではいずれの規模も20%以上増加している。また、常用労働者30人以上の企業全体について両年度を比較すると、「取り組んでいる」企業は、32.5%から57.1%へと大幅に増え、女性の働きやすい環境が整備されてきていることがうかがえる。それに加えて、平成27年8月には「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(女性活躍推進法)が成立した。これらにより、女性労働者の数はさらに増え、その職業生活における活躍が一層推進されると考える。

女性労働者は、次代を担う子供を産み育てる母性としての重要な役割を持っており、また、男性に比較すると筋力が弱いなど身体的条件の特徴を併せ持っている。そのため、産業保健専門職は、これらを勘案し、女性労働者に対する、特別な見地からの産業保健サービスの充実を図ることが重要と考える。

図1. 規模別ポジティブ・アクションの取組状況の推移



編集委員 (五十音順・敬称略)

委員長 相澤好治 北里大学名誉教授  
 加藤隆康 株式会社グッドライフデザイン技術顧問  
 亀澤典子 独立行政法人労働者健康安全機構産業保健担当理事  
 甲田茂樹 独立行政法人労働安全衛生総合研究所長代理  
 河野啓子 学校法人暁学園四日市看護医療大学名誉学長

興梶建郎 新潟産業保健総合支援センター所長  
 武田康久 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長  
 浜口伝博 ファームアンドブレイン社代表/産業医  
 東 敏昭 学校法人産業医科大学学長  
 松本吉郎 公益社団法人日本医師会常任理事



## 産業医・産業保健スタッフ必携 産業保健の基礎—法令と実務—

著者：石井義脩 発行：新日本法規株式会社 定価：(4,000円+税)

本書は、専門的な産業保健スタッフにとって最も頼りなる1冊である。近年、産業保健の法令や政策を解説した本は多いが、本書のように詳細かつ簡潔な類書は見当たらない。著者の石井義脩<sup>よしまさ</sup>氏は、労働安全衛生法が制定された1972年に労働省に入省し、計画課法規係として関係政省令を一つひとつ点検した人であり、法令の要所や真意を承知している。当事者の証言として、正確な用語、番号、根拠が、表形式で簡潔に整理されており、45年分の改正内容がこの1冊にまとまっている。職業病認定対策室長などの行政経験に加え、産業医学振興財団、産業保健総合

支援センター、各医学部で産業医や産業保健スタッフの教育や研修などに携わった経験から、私たちの疑問や悩みを知る行政経験者による書き下ろしの書である。加えて、職業性疾病に関する各条項の成立や改正に関わる歴史的経緯が丁寧に解説されているので、複雑な除外規定や行政解釈など医療関係者が最も不得手なところを理解しやすい。また、予防と補償という二つの政策を一つの書籍で見比べることができるのも都合がよい。信頼できるウェブサイトのデータベースをまるごと1冊にまとめたような本書を労働衛生活動の折々に参照してほしい。

堀江正知  
(産業医科大学産業保健管理学的研究室 教授)



## How to 産業保健 11 よくわかる じん肺健康診断

編者：労災病院じん肺研究グループ 編集委員会 発行：産業医学振興財団 定価：(1,800円+税)

じん肺健康診断に関する諸制度は、じん肺法(1960年制定)および「じん肺診査ハンドブック」(1979年改訂)を基本に、新しい内容が逐次盛り込まれている。適切な行政文書を手に入れ、独特の用語や仕組みを読み解いて「今どうなっているのか」を把握するのは産業保健専門職にとっても容易ではない。普段から呼吸器科や放射線科などの診療に携わっている方にとってはさらに難解であろう。

本書には、胸部エックス線写真をはじめとするじん肺健康診断やじん肺管理区分の決定に関する「今どうなっているのか」が読みやすい形でまとめられている。特に、重点が置かれた「じん肺健康診断結果報告書」

の書き方については、様式のパート毎に詳細な解説がある。また、関連事項として、じん肺の労災補償、労働安全衛生法に基づく健康管理手帳制度についても取りあげられている。

付録CD-ROMには、厚生労働省の協力も得て、「じん肺標準エックス線写真集」の抜粋(JPEG画像データなど)のほか、労災病院がまとめた職業別じん肺症例の解説と画像データ、諸制度の解説資料、労働局への提出書類の様式(印刷して使える電子ファイル)が収録されている。

じん肺健康診断に関わるすべての方に向けて、文字通り「よくわかる」1冊である。

田原裕之  
(株式会社安川電機 統括産業医)